

日本の 2012 年 4～6 月期の貿易動向

日本の輸出は 2012 年 4～6 月期に回復したものの、発電燃料を中心に輸入も増加を続けたため、貿易赤字は前期並み水準が継続。年内の黒字転換は絶望的。4～6 月期の輸出回復には、品目別に見ると自動車、仕向け地別には米国向けの増勢継続とアジア向けの持ち直しが寄与。アジア向けは ASEAN 向けが好調を維持し、中国向けと NIEs 向けも回復。なお、資本財輸出は総じて低調。

4～6 月期は輸出入がともに拡大

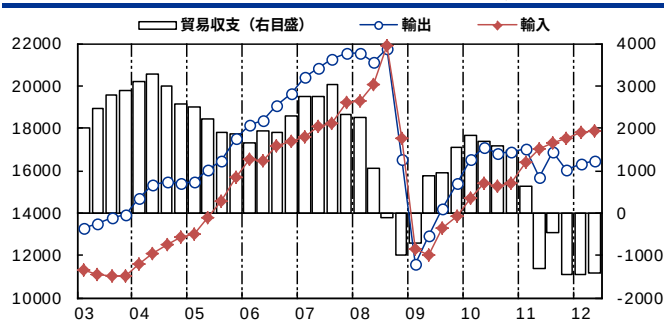
2012 年 4～6 月期の日本からの輸出額（名目輸出）は前年比 4.8%（1～3 月期▲1.6%）と 3 四半期ぶりの増加に転じた。前年比でのプラスは、東日本大震災により前年同期（2011 年 4～6 月期）に▲8.1%と大きく落ち込んだ反動が大きいものの、財務省試算の季節調整値でも 2012 年 4～6 月期は前期比 0.7%（1～3 月期 2.0%）と 2 四半期連続で増加、また円高や物価変動の影響を除いて当社が試算している実質ベース・季節調整値では前期比 3.3%（1～3 月期 0.8%）と 2 四半期連続で増加かつ 4～6 月期に伸びを高めており、輸出は回復したと言えるだろう。但し、実質ベースで見て、2012 年 4～6 月期の水準は昨年 7～9 月期と同程度にとどまっており、回復ペースは力強さを欠いたままである。

一方、輸入額（名目輸入）は前年比 5.1%（1～3 月期 9.9%）と 10 四半期連続で増加したものの、伸びは縮小している。財務省試算の季節調整値でも 7 四半期連続の前期比プラスだが、4～6 月期は前期比 0.5%と、1%以上の伸びを示していた前期までに比べやはり鈍化している。但し、当社試算の実質ベースでは 4～6 月期に前期比 2.4%（1～3 月期 0.1%）と寧ろ伸びを高めており、名目ベースの鈍化はエネルギー価格下落や円高による価格変化の影響が大きい。

貿易収支は赤字継続

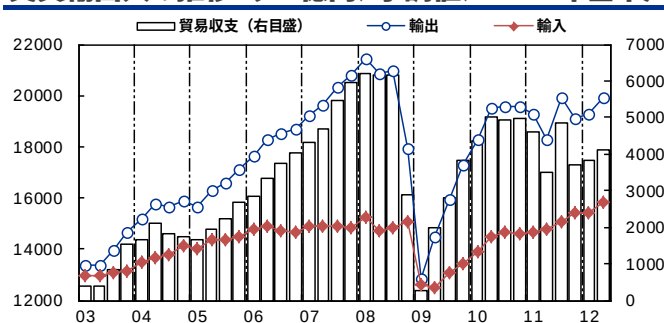
4～6 月期の貿易収支は原系列が▲1.38 兆円（1～3 月期▲1.54 兆円）と 5 四半期連続の赤字、季節調整値でも▲1.41 兆円（1～3 月期▲1.44 兆円）と 5 四半期連続の赤字だった。季節調整値で見た赤字幅は、3 四半期連続でほぼ横ばいとなっている。4～6 月期に限ってみれば、実質ベースで輸出が前期比 3.3%、輸入は 2.4%と、輸出の伸びが輸入を上回っており、実質ベースでは貿易収支が改善する方向にある。但し、こうした実質ベースでの収支改善傾向が 7～9 月期以降も維持されたとしても、年内に名目ベースの貿易収支が黒字に転換することは極めて困難だろう。ちなみに 4～6 月期の輸出入の実質ベースの伸びが継続、デフレーターを水準横ばいと仮定した場合、2012 年 10～12 月期の名目貿易収支は▲1.17 兆円の

名目輸出入の推移（10億円、季調値）



（出所）財務省

実質輸出入の推移（10億円、季調値、2005年基準）



（出所）財務省、日本銀行

赤字と試算される。

仕向け地別の輸出動向

以下では2012年4～6月期の輸出動向について、当社試算の実質ベースにより振り返る。

1. 対世界 1～3月期前期比0.8%→4～6月期3.3%

既に述べたように4～6月期の輸出全体は前期比3.3%へ伸びを高めた。

品目別に見ると、**輸送用機器が前期比9.3%（1～3月期▲1.2%）と大幅に増加**した影響が極めて大きく、寄与度では2.2%Ptと3分の2を占める。他では、**電気機器輸出が1～3月期に前期比7.8%と明確に持ち直した後、4～6月期は▲0.3%とほぼ横ばい**、**金融危機後では最高水準を維持**する一方、**一般機械は▲3.7%（1～3月期▲0.6%）と3四半期連続で減少**し、低調だった。鉱工業生産統計の一般機械工業とは異なり、貿易統計の一般機械には電子計算機（パソコン）関連も含まれるが、詳細に見ると、4～6月期は電子計算機類（名目ベース前期比▲9.9%）のみならず、建設・鉱山用機械（名目ベース前期比▲7.5%）や加熱・冷却用機器（▲9.9%）、荷役機械（▲4.4%）、繊維機械（▲12.1%）など**設備投資向けの資本財が大幅に減少**している。主因は、欧州債務問題に伴う不透明感の高まりを受けた世界的な投資抑制の動きと考えられるが、円高による価格競争力低下や東日本大震災後の海外への生産拠点移転なども影響している可能性がある。

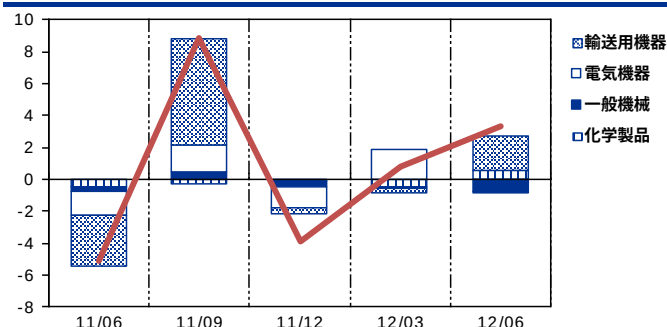
2. 対アジア

1～3月期前期比▲0.1%→4～6月期3.0%

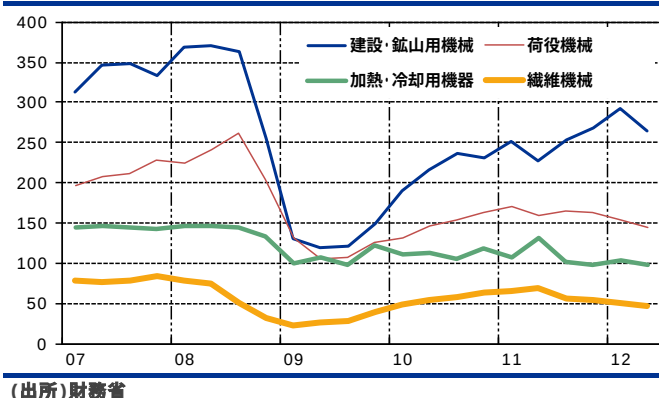
アジア向け輸出は1～3月期に前期比▲0.1%と下げ止まった後、4～6月期に3.0%と3四半期ぶりに拡大した。

後述するように、4～6月期は**ASEAN向けが増加を続け、NIEs向けと中国向けも3四半期ぶりの増加へ転じており、全般的な持ち直し**と言える。品目別には輸送用機器（10.8%）や化学製品（6.2%）、金属及び同製品（12.0%）が増加している。但し、一般機械（▲4.3%）は建設・鉱山用機械を中心に落ち込んだ。

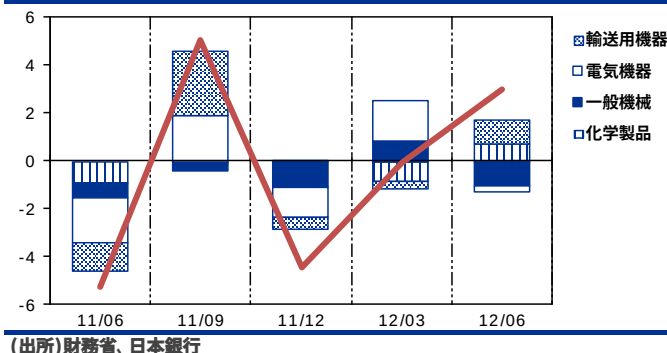
実質輸出：対世界（前期比、%）



一般機械輸出の内訳推移（名目、季調値、10億円）



実質輸出：対アジア（前期比、%）



(1) 対中国 1～3 月期前期比▲5.3%→4～6 月期 2.8%

中国向けは前期比 2.8%と 3 四半期ぶりの増加へ転じた。中国国内での投資抑制を背景に、建設・鉱山用機械を中心に一般機械は▲2.5%（1～3 月期▲7.5%）と 5 四半期連続で減少、電気機器も半導体関連を中心に▲1.4%（1～3 月期前期比 3.4%）と低調だったが、他の品目が増加へ転じた。特に押し上げ寄与が大きいのは輸送用機器（4～6 月期 6.5%）や化学製品（8.1%）であるが、金属及び同製品（6.4%）や非金属鉱物製品（3.2%）なども伸びている。また、東日本大震災を受けて昨年 1～3 月期に▲18.6%、4～6 月期▲49.0%と大きく落ち込んだ食料品も、今年に入り 1～3 月期 30.8%、4～6 月期 40.1%と急速に持ち直している。

(2) 対 ASEAN

1～3 月期前期比 8.5%→4～6 月期 7.2%

ASEAN 向けは前期比 7.2%（1～3 月期 8.5%）と 2 四半期連続で大幅に増加した。タイ大洪水向け復興需要の一巡から一般機械は▲3.2%（1～3 月期 22.6%）と減少へ転じたが、自動車関連輸出のすう勢的な拡大に加え、大口の船舶輸出もあり、輸送用機器（4～6 月期 15.1%）が大きく伸びたほか、金属及び同製品（17.9%）や化学製品（12.4%）なども二桁増加を確保している。ASEAN 向け輸出は、域内経済の順調な拡大を背景に好調と言える。

(3) 対 NIEs

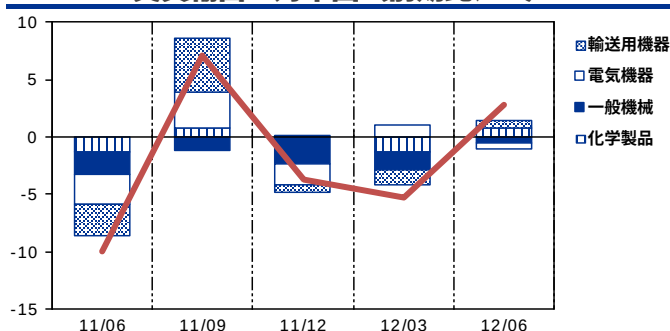
1～3 月期前期比▲2.6%→4～6 月期 2.6%

NIEs 向け輸出は前期比 2.6%（1～3 月期▲2.6%）と、中国向けと同様、3 四半期ぶりに増加した。同地域に集積している IT 関連産業向けの電気機器輸出は▲0.9%（1～3 月期 2.0%）と未だ持ち直しが明確ではないものの、他のアジア地域向けと同様に輸送用機器（4～6 月期 30.6%）や金属及び銅製品（9.0%）が堅調に推移した。

3. 対米国 1～3 月期前期比 3.2%→4～6 月期 7.5%

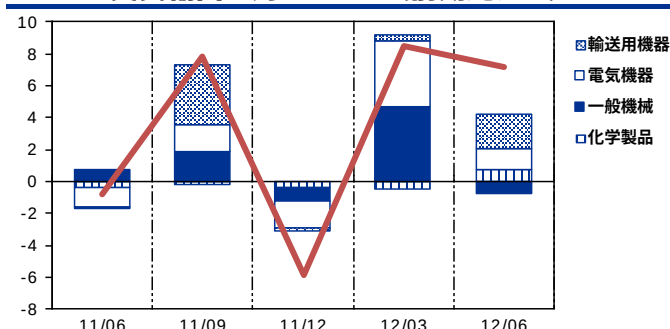
米国向けは、東日本大震災を受けたサプライチェーン途絶により、一時的に落ち込んだが、均してみれば拡大基調が続いている。4～6 月期は前期比 7.5%（1～3 月期 3.2%）と 4 四半期連続の増加でした。輸出

実質輸出：対中国（前期比、%）



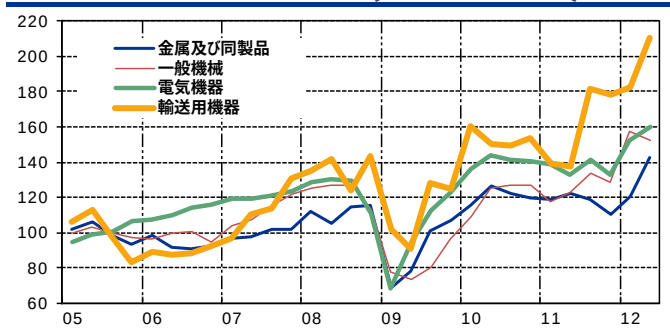
(出所)財務省、日本銀行

実質輸出：対ASEAN（前期比、%）



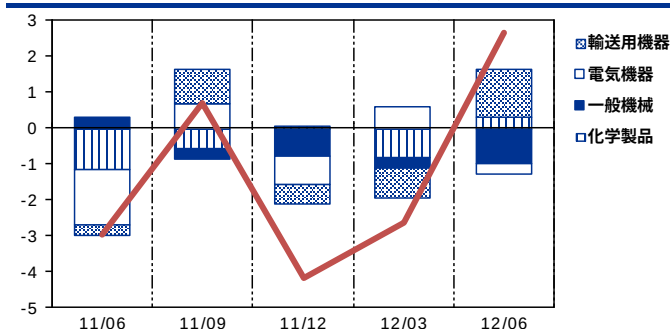
(出所)財務省、日本銀行

ASEAN向け実質輸出(2005年=100)



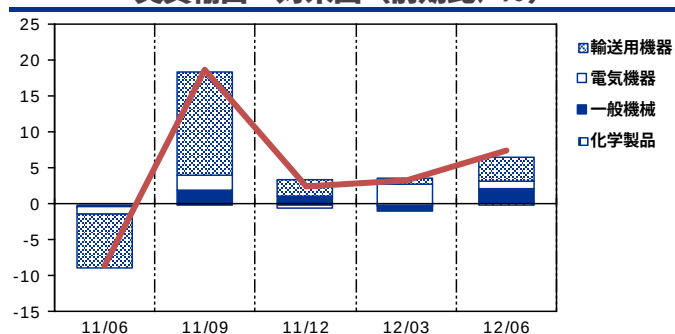
(出所)財務省、日本銀行

実質輸出：対NIEs（前期比、%）



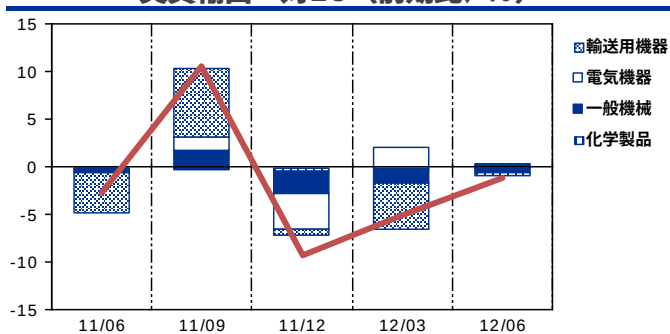
(出所)財務省、日本銀行

実質輸出：対米国（前期比、%）



(出所)財務省、日本銀行

実質輸出：対EU（前期比、%）



(出所)財務省、日本銀行

全体の3分の1を占める輸送用機器が9.0%（1～3月期2.6%）と好調な点が目立つものの、他の品目も繊維製品を除いて増加しており、総じて好調である。

4. 対EU 1～3月期前期比▲5.0%→4～6月期▲1.1%

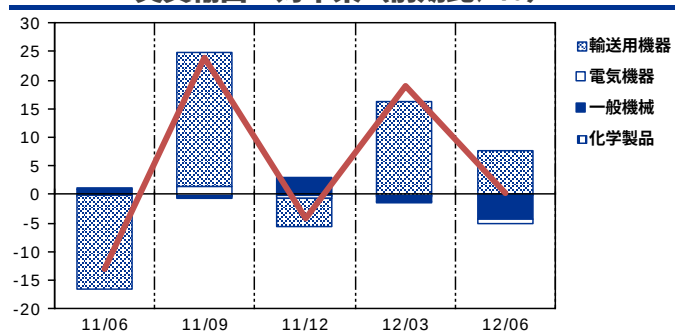
EU向けは▲1.1%（1～3月期▲5.0%）と3四半期連続で減少した。欧州債務問題を受けた域内経済の低迷により、日本のEU向け輸出も振るわない。品目別に見ても、4～6月期に増加したのは繊維関連（4～6月期11.8%）や化学製品（4.4%）に限られ、他は金属及び同製品（▲10.1%）、一般機械（▲2.3%）、輸送用機器（▲1.8%）など軒並み低調だった。

5. 対中東 1～3月期前期比0.4%→4～6月期19.0%

6. 対ロシア 1～3月期前期比5.0%→4～6月期▲3.4%

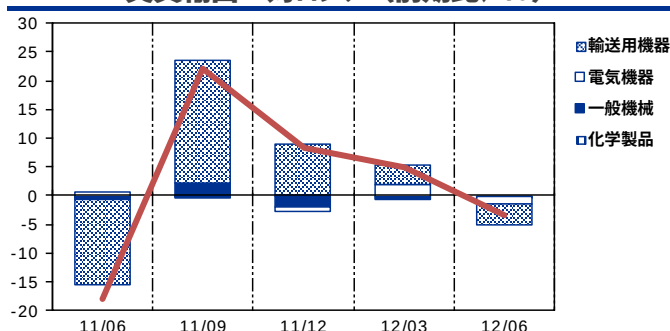
中東向けは、設備投資関連を中心に一般機械が落ち込んだものの、自動車輸出の拡大により2四半期連続の増加を確保した。一方、ロシア向けは自動車、一般機械、電気機器など全般的に低調で、4四半期ぶりの減少に転じている。

実質輸出：対中東（前期比、%）



(出所)財務省、日本銀行

実質輸出：対ロシア（前期比、%）



(出所)財務省、日本銀行